

令和元年度第9回開成町課長会議

日時 令和元年12月12日（木）午前9時～10時15分
場所 町民センター中会議室B
進行 行政推進部長

1. 町 長

2. 行事予定について（裏面のとおり）

その他

総務課	令和元年度表彰式について【5分】
自治活動応援課	「第4次かいせい男女共同参画プラン」の策定状況について【10分】
税務窓口課	マイナンバーカード交付円滑化計画の策定について【5分】
環境防災課	防災行政無線デジタル化整備工事について【5分】 台風19号警戒に伴う意見・改善提案等について【5分】 防災訓練振り返り結果報告について【5分】
保険健康課	介護保険事業計画（第7期）における介護施設整備について【5分】

【表彰式及び賀詞交換会の開催について】

- 1 日時 令和 2 年 1 月 5 日（日）午前 10 時 00 分 表彰式
午前 11 時 20 分 表彰祝賀及び賀詞交換会
- 2 場所 開成町福社会館 多目的ホール
- 3 受章者【裏面参照】
功労表彰（2 件）、一般表彰（17 件）、感謝状（1 件）、芸術・文化・スポーツ奨励賞（16 件）
- 4 招待者
牧島衆議院議員、杉本県会議員ほか
町内各種団体の委員等 300 名程度
- 5 当日の流れ

（ロビー展示 中学生の書の展示）

町表彰式 （司会：保険健康課 新美恵美子）

（1）10：00～

開式のことば 加藤 一男 副町長

町長あいさつ 府川 裕一 町長

議長あいさつ 吉田 敏郎 議長

賞状授与 功労表彰、一般表彰、感謝状、芸術・文化・スポーツ奨励賞

来賓祝辞 牧島衆議院議員、杉本県会議員

閉式のことば 井上 義文 教育長

賀詞交換会

（2）11：20～

開式のあいさつ 前田 せつよ 副議長

乾 杯 菊川 敬人（功労表彰受賞者）

（祝 宴）

万歳三唱 高田 幸男 自治会長連絡協議会会長

【資料】受賞者名簿（敬称略）

1 功労表彰（功労章）

菊川 敬人（金井島） 議会議員 辻村 貴子（下島） 民生委員

2 一般表彰（善行章）

西海 義雄（金井島） 地域発展 金澤 幸男（上延沢） 地域発展
富田 忠文（河原町） 地域発展 春田 和子（河原町） 地域発展
宮根 清（榎本） 地域発展 井上 準一郎（榎本） 地域発展
中家村災害救助支援隊（中家村） 地域発展 山田 貴弘（牛島） 議会議員
星野 弘幸（宮台） スポーツ推進委員 水品 慶一（宮台） 消防団員
草柳 康雄（宮台） 消防団員 石井 サト子（上島） 更生保護女性会
阿部 玲子（上島） 保護司 高崎 俊幸（中家村） 青少年指導員
開成町立文命中学校おやじの会 辻村 昌美（下島） 一般寄附
新倉 啓介（東京） 一般寄附

3 感謝状

故宮崎 澄子（パレット） 一般寄附

4 芸術・文化・スポーツ奨励賞

諸星賢太郎（下延沢） 2019Ene-1GP SUZUKA 全国大会 KV-BIKE（電池自動車）大学高専部門3位
杉野森望愛（円中） 第32回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）創作コンクール部門入選
出口 棕子（パレット） 第32回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）創作コンクール部門入選
草柳 咲穂（円中） 令和元年度全国高等学校定時制通信制体育大会第52回卓球大会出場
神部 愛乃（上島） 第87回日本高等学校選手権水泳競技大会出場
遠藤 由梨（中家村） USA Nationals2019 全国選手権大会（チアリーディング）出場
河尻 佳純（下島） 第63回関東高等学校弓道大会女子団体準優勝
森 麻優奈（金井島） JFA 第22回全日本 U-18 女子サッカー選手権大会4位
森 一馬（上島） 第35回日本パラ水泳選手権大会 50m 平泳ぎ1位
開成ジュニアアンサンブル・スーパーブルーバース
第2回日本スチューデント・ジャズ・コンテスト 2019 優秀賞
松永 詩織（上島） 第47回関東中学校陸上競技大会（女子）低学年走幅跳出場
小松 凜花（下島） 令和元年度関東高等学校陸上競技大会南関東地区予選会リレー出場
須谷 星凜（パレット） 関東高等学校選抜ソフトテニス大会団体ベスト8
加藤 岳史（下島） JFA 第7回全日本 0-40 サッカー大会関東予選会優勝
開成町立文命中学校男子ソフトテニス部
第49回関東中学校ソフトテニス大会出場
開成町立文命中学校女子ソフトテニス部 工藤瑠七・橘真名ペア
第49回関東中学校ソフトテニス大会出場

マイナンバーカード交付円滑化計画の策定について

令和元年 6 月 4 日に開催されたデジタル・ガバメント閣僚会議において「マイナンバーカードの普及とマイナンバーの利活用の促進に関する方針」(参考資料 1) が決定されました。

また、本年 9 月 3 日に開催されたデジタル・ガバメント閣僚会議において「マイナンバー交付枚数(想定)・マイナンバーカードの健康保険証としての医療機関等の利用環境整備に係る全体スケジュール」が決定され、全市区町村において、この全体スケジュールにおけるマイナンバーカードの交付枚数の想定に沿ったマイナンバー交付円滑化計画を策定し、マイナンバーカードの交付体制の整備や普及促進等に計画的に取り組むよう要請がありました。開成町でも 10 月に交付円滑化計画を策定いたしましたところ です。

1 開成町の交付円滑化計画の概要

(1) 交付枚数の想定

国の全体スケジュールにおけるマイナンバーカードの年度ごとの交付枚数想定に沿って町の交付枚数を想定

○基本データ (平成 31 年 1 月 1 日現在人口: 17, 744 人 ①)

	令和元年 8 月末	令和元年 10 月末
交付枚数 ②	2, 394 枚	2, 486 枚
交付枚数率 (②/①)	13. 5 %	14. 0 %

〔参考〕月平均交付枚数(平成 30 年度実績: 22 枚/月)

制度開始(平成 28 年 1 月)からの平均交付枚数(54 枚/月)

○国の全体スケジュールに基づいた町の交付枚数の想定

時 期	国交付枚数 (想定)	国の交付率 (想定)	町での交付 想定枚数	町での毎月 交付想定枚数
2020(R 2) 年 7 月末	3, 000~4, 000 万枚	下限値 23. 5 %~ 上限値 31. 4 %	4, 170 枚 (下限値見込)	約 161 枚 (R1. 9~R2. 7)
2021(R 3) 年 3 月末	6, 000~7, 000 万枚	下限値 47. 1 %~ 上限値 54. 9 %	8, 357 枚 (下限値見込)	約 523 枚 (R2. 8~R3. 3)
2022(R 4) 年 3 月末	9, 000~10, 000 万枚	下限値 70. 6 %~ 上限値 78. 5 %	12, 527 枚 (下限値見込)	約 347 枚 (R3. 4~R4. 3)
2023(R 5) 年 3 月末	ほとんどの住民がカードを保有		15, 970 枚 (仮 90 %見込)	約 286 枚 (R4. 4~R5. 3)

(2) 交付体制の整備

○想定枚数の交付に必要なとなる体制

項 目	数 量	内 容
① 窓口数	1 か所	本庁舎
② 土日・夜間開庁	実施	土日（月 1 日／午前） <u>夜間（週 1 回／20 時まで）（R2.1～）</u>
③ 職員配置数	2 人	<u>正規 1、非常勤 1（R2.1～）</u>
④ 統合端末台数	2 台	交付 1、交付前設定 1

(3) 申請受付等の推進

○申請サポートサービス（写真撮影、オンライン申請補助等）

- ・自治会等に向けたマイナンバーカード申請サポートサービス説明会の実施
- ・申請サポートサービスの実施

実施場所：役場庁舎窓口、地域集会施設、イベント会場（文化祭等） など

- ・土日、夜間開庁の交付窓口開設にあわせて申請サポートサービスを実施

2 想定される課題・今後の対応等

国は、令和 4 年度中にほとんどの住民がマイナンバーカードを保有していることを想定し、マイナンバーカードの普及を強力に推進するとされています。

今後、マイナンバーカードの交付申請が大幅に増加し、税務窓口課の交付・申請の窓口が混雑することが予想されます。

〔国から求められた円滑なカード取得に向けて取り組むべき事項（円滑化計画策定・推進にあたり留意すべき事項）〕

- ① 庁内に部局横断型の推進体制を構築し、交付円滑化計画に沿った施策の実施に取り組むこと。
- ② 令和 2 年 1 月以降、電子証明書及び未成年者に交付されたマイナンバーカードの有効期限が到来し、更新手続きが発生すること。
- ③ 円滑なカード取得に向けて、来庁者への申請勧奨・申請受付や、出張して行う申請受付を実施してもらいたいこと。
- ④ 保険担当課と住民担当課と協力して窓口で端末等を設置し、マイナンバーカード取得者がマイナポータルを通じて健康保険証として利用するための初期設定を支援してもらいたいこと。（令和 2 年度以降予定）
- ⑤ 「マイナポイント」を活用した消費活性化対策については、マイナンバーカード取得者自らマイキー ID を設定することが前提ではあるが、地方公共団体において、マイナンバー交付担当部局とマイキー ID 担当部局が連携し、マイキー ID の設定支援を行う体制を構築することを検討すること。

－ 以 上 －

マイナンバーカードの普及とマイナンバーの活用への促進に関する方針（概要）

I 基本的考え方

- 国民にマイナンバー制度のメリットをより実感していただけるデジタル社会を早期に実現するため、安全・安心で利便性の高いデジタル社会の基盤であるマイナンバーカードの普及とその利便性の向上等を図る。
- 社会保障の公平性の実現、行政の利便性向上・運用効率化等に向け、マイナンバーの活用への促進を図る。

II マイナンバーカードの普及とマイナンバーの活用への促進

1. 自治体ポイントの活用

- (1) 制度設計等（基本的な制度設計について、検討を加速し、結論を得次第、順次広報を実施。）
- (2) 環境整備（本年末までに、協議会への全地方公共団体の参加勧奨。マイキーID設定の簡素化、ID設定の支援、広報）

2. マイナンバーカードの健康保険証利用

- (1) 医療の質と利便性の向上等（確実な本人確認と保険資格確認、過誤請求防止、特定健診情報等の活用、薬剤費の節約、顔認証の活用等）
- (2) マイナンバーカードの健康保険証利用に向けた環境整備（マイナンバーカードの健康保険証利用を令和3年3月から本格運用。令和4年度中に概ね全ての医療機関での導入を目指すこととし、具体的な工程表について、本年8月を目途に公表。令和4年度末までの具体的な移行スケジュールを含め、保険者毎の被保険者のカード取得促進策についても、本年8月を目途に公表。国家公務員及び地方公務員等については、本年度内にマイナンバーカードの一斉取得を推進。）

- (3) 企業の総務事務の効率化の促進等（社員証、社員の健康管理、社会保険・税手続きのワンストップ化等）

3. マイナンバーカードの円滑な取得・更新の推進等

- (1) 全市区町村における交付円滑化計画の策定・推進等（安全・安心で利便性の高いデジタル社会をできる限り早期に実現する観点から、令和4年度中にほとんどの住民がマイナンバーカードを保有することを想定し、具体的な工程表を8月を目途に公表。市区町村に対し必要な財政支援を実施。）
- (2) 全業所管官庁等を通じた計画的な取組と定期的なフォローアップ（全企業において必要な手続きが円滑に進むよう、フォローアップを実施。）
- (3) マイナンバーカード申請・交付機会の拡大等（企業等への出張申請サービスの積極的展開、他の行政機関等（ハローワーク、税務署、運転免許センター、病院、介護施設、学校、郵便局、出入国在留管理局等）との連携強化による市区町村の出張窓口の設置（臨時措置））
- (4) 住民票作成時のマイナンバーカード申請手続き整備（新生児、外国人等の住民票作成）
- (5) 取得申請事務の簡素化等（写真撮影、入力支援、平日夜間・休日の窓口開庁や臨時窓口の設置等）
- (6) 電子証明書等の更新への対応

4. マイナンバーカードの利便性、保有メリットの向上、活用シーンの拡大

- ① デジタル・ハローワーク・サービス、② デジタル・キャンパス、③ 納税手続きのデジタル化、④ 建設キャリアアップシステムとの連携、⑤ 各種カード、手帳等との一体化等によるデジタル化、⑥ 公的サービス等での利用拡大、⑦ マイナンバーカード読み取り対応スマートフォン等の公的個人認証の利便性向上

5. マイナンバーカードの安全性や利便性、身分証明書としての役割の拡大と広報等

6. マイナンバーの活用への促進（情報連携の推進、金融機関等との連携、行政の効率化）

III フォローアップ等

- 真に効果的・効果的な手法により実施。内閣官房は、各府省の施策の実施状況等を定期的にフォローアップし、デジタル・ガバメント閣僚会議に報告。

「第 4 次かいせい男女共同参画プラン」の策定について

1. 今回の策定の主なポイント

- ① 「第 3 次かいせい男女共同参画プラン」の改定であることから、基本理念、目標及び計画構成は基本的には第 3 次プランを踏襲している。
- ② 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」第 6 条第 2 項に定める本町の推進計画としての位置付けを兼ねるため、女性の職業生活における活躍を推進、支援する取り組みを追加する。
- ③ 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」第 2 条の 3 第 3 項に基づく本町の基本計画としての位置付けを兼ねるため、ドメスティック・バイオレンス（DV）や各種ハラスメント防止のための取り組みを追加する。
- ④ 男女共同参画の視点から、LGBTを始めとする性的マイノリティの人たちへの対応を追加する。
- ⑤ 子育てや介護と仕事の両立に向けて、ワーク・ライフ・バランスを推進する。

2. 策定（改定）部分の構成比較表

- ① 別紙のとおり。

3. 策定スケジュール

- R 元. 9. 2 第 1 回「第 4 次かいせい男女共同参画プラン」策定委員会（町職員で構成）開催
10. 29 第 2 回 同委員会開催
11. 15 男女共同参画推進ボランティアに意見を依頼（11 月末まで）
12. 12 課長会議で説明
12. 25 第 3 回「第 4 次かいせい男女共同参画プラン」策定委員会開催（予定）
- R 2. 1. 20 町議会全員協議会で説明（予定）
1. パブリックコメント実施（30 日間）
 2. 最終案の決裁

4. これまでの計画策定経過

- 平成 8 年 3 月 「かいせい女性プラン」策定
- 平成 14 年 3 月 「かいせい男女共同参画プラン」策定
- 平成 20 年 3 月 「かいせい男女共同参画プラン－改訂版－」策定
- 平成 26 年 3 月 「第 3 次かいせい男女共同参画プラン」策定

以上

開成町防災行政無線デジタル化整備工事（内訳）

- ①同報系設備 **基地系**
- 操作卓一式【記録装置／チャイム／CD他音源】
 - 地図表示盤（放送地図表示）
 - ・文字情報入力装置
 - ・Jアラート装置
 - ・自動起動装置
 【放送内容を各種媒体へ一括送信が可能】
 - ・庁舎屋外施設更新（アンテナ／スピーカー）
 - テレホンサービス／メール配信／ケーブルTV接続
- 子局系**
- ・屋外子局26局【増設4基】（柱建替え16基）
 - 【スピーカー／受信装置／アンテナ／LED警告灯】

②災害対策会議室

- 多目的情報表示盤（70インチモニター×2台）移動式

- ・画像／地図表示、画面への直接書込み／プリント機能
 - ・気象観測データ【雨量／風速／風向／気圧／温度／湿度／日照】
 - ・発令判断システム【発令に必要なデータを収集し意思決定をサポート】
- 災害情報表示盤（32インチモニター×5台【架台3】：TV視聴）移動式
- デジタル移動無線制御装置（遠隔1局）
- デジタル簡易無線機装置（遠隔3局）

③移動系無線設備

- A **デジタル移動無線**
- ・無線基地局1局
 - 260MHz帯
 - ・車載無線機3台：【消防指令車、交通指導車、防災トラック】
 - 【町職員限定】
 - ・携帯無線機30台：広域／一時避難場所18台
 - 【職員を派遣時に携帯】
 - 他12台

- B **デジタル簡易無線**
- ・無線基地局3局：【①町・②消防団・③自治会】
 - 351MHz帯
 - ・車載無線機8台：【消防車7＋消防指令車1】
 - ・半固定／携帯無線機80台

- ・町所有21台【事業等で使用可】
 - ・広域避難所等8台／園学校5台／駅1台
 - ・消防団：正副団長3台／7個分団×2台＝14台
 - ・自治会：14自治会×2台＝28台

※全30チャンネルのうち、チャンネルを指定して運用する。
基地局を3局設けるので、①②③と同時に通信が可能となる。

参考：現行の移動無線機台数62台（車載12、可搬24、携帯26）

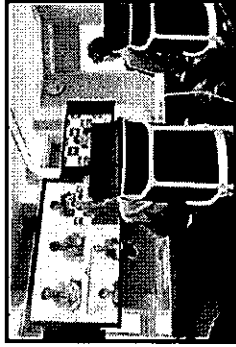
防災行政無線同報系導入に伴う整備方針

方式：デジタル同報系新方式（QPSK方式）

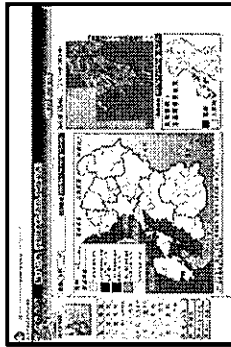
- ①災害時に強い回線であり、住民への確実な情報伝達を図る。
大規模災害時において、停電や携帯電話等の情報伝達網が不通の際にも、確実に情報伝達ができるシステムとする。
- ②停電対策（停電時の72時間以上運用）が可能なシステムとする。
停電対策（72時間以上）及び無線設備の耐震（震度6強以上）について確保し、主要設備は、冗長化構成（二重化構成）とする。
- ③ワンプッシュで各メディアへの情報伝達を可能なシステムとする。
従来の音声放送だけではなく、ワンプッシュで各メディア（ホームページ・メール・テレビホンサービス等）への一元的な情報伝達を行う。
- ④家庭用受信端末等については、だれでも容易に操作でき、運用・維持管理が容易なシステムとする。
- ⑤費用対効果の高いシステムとする。
- ⑥財源として、緊急防災・減災事業債等国庫支援策を活用できるシステムとする。

デジタル同報系新方式による新たな災害情報の伝達手段

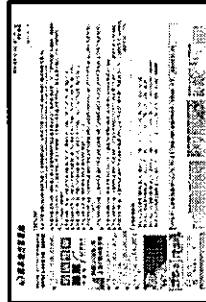
災害情報の収集



テレビ・ラジオ・インターネット等



神奈川県防災行政通信網



全国瞬時警報システム



開成町気象観測システム（新規）
開成町の気温、雨量、風速等の
データ収集が可能となる。

新庁舎 防災無線室

● 町民等への情報伝達の拡充を図る。

・ ワンタッチでの一元配信（新規）
戸別受信機、防災ラジオ、町ホームページ、あんしんメール、緊急速報メール、J：COM端末等との連携が可能となる。

・ デジタル、新スプリアス対応アナログ操作卓（拡充）
新スプリアスに対応するデジタルアナログ併用機器導入により戸別受信機、防災ラジオ所有者への伝達がアナログ波の使用制限が生じるまで可能となる。

新庁舎 災害対策本部会議室

● 的確な情報収集を行い災害対応の判断を迅速化する。

・ 多目的情報表示盤（新規）
70インチモニター2台
地図等を映したモニターに直接書き込めるホワイトボード機能が付いており、災害記録を記載するホワイトボードの電子化が可能となる。

・ 災害情報表示盤（新規）
32インチモニター5台
テレビ、県防災行政通信網の気象データ、現場からの写真、気象観測システムデータの視聴が可能となる。

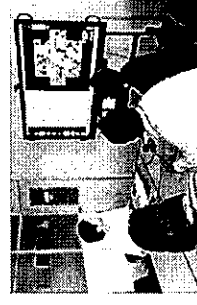
2

町民への災害情報の伝達

・ 屋外拡声子局26局（拡充）
新設4局、建て替え16局
新たに4局増設し、町民への伝達範囲の拡充を図る。
全26局LED警告灯による告知が可能となる。

・ 戸別受信機（アナログ、デジタル）防災ラジオ（拡充）
アナログ波の使用制限が生じるまで戸別受信機での使用が可能となる。（当面の間）
・ テレホンサービス（拡充）
通話中にならないよう回線の拡充を図る。

・ J：COM端末との連携（新規）
・ 町ホームページ、メール配信（安心メール）等



防災行政無線アンテナ設置場所
→ 町民センター屋上
県防災行政通信網・震度計設置場所
→ 町民センター南側駐車場跡地

防災行政無線移動系導入に伴う整備方針 方式：デジタル移動系新方式（QP SKナロー） 及びデジタル簡易無線機

- ①災害時に強い回線であり、確実な情報収集を図る。
大規模災害時において、停電や携帯電話等の情報伝達網が不通の際にも、職員間で個人情報等の取り扱いを、確実に情報収集できるシステムとする。
- ②自治会同士や消防団同士での情報収集を複数波で可能とする。
- ③停電対策（停電時の72時間以上運用）が可能なシステムとする。
- ④だれでも容易に無線機を操作でき、運用・維持管理が容易なシステムとする。
- ⑤費用対効果の高いシステムとする。
- ⑥財源として、緊急防災・減災事業債等国庫支援策を活用できるシステムとする。

デジタル移動系新方式による新たな災害情報の伝達手段

新庁舎
災害対策本部会議室
防災行政無線室

デジタル移動系 (260MHz 帯)

攜帶無線機30台(職員)、車載3台
計33台

場所から場所への単信方式ではなく役場（基地局）を経由した半複信方式を採用
確実な情報伝達を行うため、移動系デジタル新方式ではダイバーシティ方式を採用

デジタル簡易無線機(351MHz帯)

携帯無線機（自治会・消防団）51台、
半固定29台（地域避難所、広域避難所、
公共施設）、車載8台、計88台

●情報伝達

- ・防炎行政無線移動系無線機統制台、デジタル簡易無線機基地局無線装置（防災無線室）
- ・防炎行政無線移動系遠隔制御装置（新規）
デジタル簡易無線機マイク延長装置（新規）
災害対策本部会議室、防災執務室に設置

※移動局間の直接通信

※地域避難所、広域避難所
所等はより確実に半固定方
式を採用

A チヤンネル：消防団
B チヤンネル：自治会
C チヤンネル：分

※30チャンネルあり

課 長 会 議 資 料
令 和 元 年 1 2 月 1 2 日
町 民 サ ー ビ ス 部 環 境 防 災 課

令和元年台風19号 開成町における警戒対応及び経過について【まとめ】

1. 事前体制

10月11日（金）

○10：30～ 第1回（台風19号）台風対策会議開催

【協議内容：台風の現況、気象予測、酒匂川・三保ダムの現況、防災無線放送、水門閉鎖・パトロール、職員配備、避難所開設、消防団待機】

○16：30～ 第2回（台風19号）台風対策会議開催

【協議内容：台風の現況、気象予測、酒匂川・三保ダムの現況、防災無線放送、水門閉鎖・パトロール、職員配備、避難所開設、消防団待機】

※決定事項：職員参集時間及び配備体制、広域避難所等開設場所及び時間

2. 警戒・災害対策本部会議

10月12日（土）

○7：40～ 第1回 **警戒**対策本部会議

【協議内容：台風の現況、気象状況、酒匂川・三保ダムの現況、広域避難所開設、各課（班）等の活動状況、町内パトロール計画】

○10：30～ 第2回 **警戒**対策本部会議

【協議内容：台風の現況、気象状況、酒匂川・三保ダムの現況、パトロール結果・対応、広域避難所避難状況】

□13：30～ 第1回 **災害**対策本部会議

※酒匂川が水防団待機水位に達したため、警戒対策本部を災害対策本部に切替
えるとともに、「警戒レベル3：避難準備・高齢者等避難準備開始」の発令し、
十文字橋閉鎖とした。【その他協議内容：台風の現況、気象状況、酒匂川・三保
ダムの現況、パトロール結果・対応、広域避難所避難状況】

□16：30～ 第2回 **災害**対策本部会議

【協議内容：酒匂川・三保ダムの現況、パトロール結果・対応、広域避難所避難状況】

□19：30～ 第3回 **災害**対策本部会議

【協議内容：酒匂川・三保ダムの現況、パトロール結果・対応、広域避難所避難状況】

※19：00酒匂川（松田）2.3m氾濫注意水位に到達

□22：45～ 第4回 **災害**対策本部会議

【協議内容：酒匂川・三保ダムの現況、パトロール結果・対応、広域避難所避難状況】

※降雨小康状態、酒匂川水位下がりはじめ、避難者の帰宅が進んでいることから、
23：05「避難準備・高齢者等避難準備開始」解除、広域避難所の閉鎖決定、
災害対策本部を閉鎖

3. 職員配備体制及び主な業務内容

- ・三役、全職員を参集し配備（職員96名、防災安全専門員1名）
（0・1号7:30参集、2・3号8:00参集）
- ・業務内容：本部運営、広域避難所及び福祉避難所運営、水路等町内パトロール、
十文字橋通行止め対応、職員出動管理、問合せ対応 等
※適宜、交代しながら運営～最終：十文字橋通行止め解除まで従事13日6:00
※消防団：本部 8:30参集～解散24:00（消防団77名：最終人員）
分団13:00～詰所待機～解散23:45 ※町内パトロール、河川監視

4. 開成町の気象警報等発令等状況

- 10月12日（土） 7:05 大雨警報発令
9:28 洪水・暴風警報発令
23:21 暴風警報解除
10月13日（日） 3:37 大雨・洪水警報解除

5. 開成町の降雨量、河川水位、三保ダム関係

- ・総降雨量 県西土木（308mm）最大時間雨量（12日20:00・24mm）
参考：足柄峠572mm、箒沢609mm、小山671mm、桑木833mm
- ・河川水位 酒匂川（12日21:00・2.74m）最大
【氾濫注意水位2.3m、避難判断水位2.8m、氾濫危険水位3.8m】
要定川（12日20:00・1.00m）最大
【氾濫注意水位1.1m、避難判断水位1.2m、氾濫危険水位1.4m】
- ・三保ダム 最大流入量（12日20:00・1,833.33m³/S）
最大放流量（12日21:00・1,158.91m³/S）

6. 広域避難所・福祉避難所関係（開設・12日9:00～閉鎖12日・23:05決定）

場 所／ 避難者数(人)	9:00	11:00	13:00	15:00	17:00	19:00	21:00	22:00
開成小学校	3	6	23	73	105	107	104	15
開成南小学校	4	9	33	39	98	102	88	47
文命中学校	2	8	9	23	54	74	74	12
福祉会館	0	2	9	19	35	35	33	14
計	9	25	74	154	292	318	299	88

※避難勧告を発令していないことから、自主避難場所として開設

7. 被害状況（15日：17時現在）

- ・開成水辺スポーツ公園冠水被害
- ・GRC管理棟等の窓ガラス2枚破損

8. その他

職員から意見や提案事項等を聴取し、今後の対応策等を検討する。

課 長 会 議 資 料
令 和 元 年 1 2 月 1 2 日
町 民 サ ー ビ ス 部 環 境 防 災 課

令和元年度 開成町防災訓練 振り返り結果報告書

- 【資料 1】 職員・広域避難所・自主防災会・消防団振り返り結果・・・P 1
【資料 2】 文命中学校生徒振り返り結果・・・P 2～P 4
【総 括】 来年度の防災訓練実施に向けた振り返り結果のまとめ・・・P 5

田舎モダン



開成町
kaisei town

令和元年度開成町防災訓練 自主防災会振り返り結果

対 象	防災訓練振り返り意見のまとめ
職 員	・マニュアルと現実に即していない部分があるので修正が必要である。【街づくり推進課・保険健康課】 ・防災服や装備品については町章がなかったり、劣化していたりするので適宜更新していった方がよい。【街づくり推進課】 ・昨年度の防災訓練の振り返りがどのようにいかされたかフィードバックが欲しかった。【企画政策課】 ・実際の災害時を想定し、参加職員の人数制限や流動的な班編成、道路の通行止めを考慮したりなどより実践的な訓練を行ってもいいのではないか。【総務課、環境防災課、上下水道課】 ・無線機の不具合や通信の割り込みがあったので使用方法や事前の点検等を確実に行った方がよい。【環境防災課、自治活動応援課】 ・職員間でのシェアサイクルの周知やマニュアル化が必要であった。【総務課、保険健康課】 ・要援護者拠点施設では衛生用品等の備蓄が不足気味であった。【福祉課】
広域避難所	・避難所開設、運営については事前に環境防災課と打ち合わせを行ったためスムーズだった。【教育総務課、子ども・子育て支援室】 ・受付表で記入するものが多く、一時混雑したので記入内容の見直しが必要ではないか。【教育総務課、子ども・子育て支援室】 ・各避難所に「受付」、「トイレ」等の看板を常備しておくとうよい。【税務窓口課】
消防団	・自主防災会からの訓練依頼に全て対応するには現在の人数では厳しい。【特2】 ・水害を想定した訓練も必要ではないか。【第1】 ・避難所の設営や運営を自治会で行うべきことを確認し、予定調和ではない実践的な訓練をしたほうがよい。【第1】 ・地域の消防団 OB が現役団員の補助等をしてくれたので助かった。【第3】 ・消火栓訓練は中学生を対象に行ったがやる気が見られない。防災訓練に中学生を参加させる意味を考えた方がいい。【特2、第1、第3】
自主防災会	・スケジュール通りに自主防災会の訓練を実施できた。【金井島・上延沢・宮台・牛島・中家村・パレットガーデン】 ・無線機の感度が悪く、通信困難な状況が発生した。【金井島】 ・無線の通信方法などは習熟不足であった。練習し次回にいかしたい。【みなみ】 ・訓練がマンネリ化している。【上延沢・パレットガーデン】 ・参加者に対して指導者の数が不足し、待ち時間が発生してしまった。【みなみ】 ・要援護者の把握が困難であった。対策が必要である。【宮台・円中】 ・中学生が授業として参加しているが消極的であった。【下延沢・円中・牛島】 ・浸水害を想定した防災訓練を実施してほしい。【河原町】 ・防災倉庫にあるものを使用しての訓練は現実味があり有意義だった。【みなみ】

令和元年度 町防災訓練を終えて

～生徒の感想より～

【1年生】

- ・普段、災害が起きたときに自分たちはどこへ逃げ、何をするのかということをあまり考えたことがありませんでした。今回の防災訓練で自分たちが災害時の大きな戦力になると知り、しっかりと日々の生活の中で災害に備えていくことが大切だとわかりました。どう動いて良いかわからない自分たちに優しく声をかけ、やり方を教えてくれた地域の皆様に感謝するとともに、すごいなと思いました。中学生の間に全ての仕事をやり、地域の皆さんに負けないぐらいの防災知識を身につけ、災害時に自分から積極的に行動できるようになりたいです。(中家村)



- ・災害時に何をしたら良いかわからず困ることが減りました。炊き出しの他にも消火器を使ったり見たりしました。実際起きてしまったときは今日以上の焦りや不安があると思います。そのときに練習通りにできたらベストだと思います。だから今のうちにいろいろなことを体験し、災害に備えることができて良かったと思います。今日は指示してもらったことをやるだけだったので、もし災害が起きてしまったときには自分のできることを考え、積極的に行動していきたいと思います。そして役に立てたら良いなと思いました。起こって欲しくはないけど、いつ起きるかわからない。だから今日教えていただいたことを活かしていきたいです。(上島)



- ・今までは小学校の訓練とかしかやったことがなかったから、消火栓などの使い方を知れて良かったです。また、実際に体験してみて、消火栓を扱う難しさや炊き出しの大変さがわかりました。私たちがやらなくてもいいじゃんと思っていたけど、実際にやってみて自分たちにもできる仕事はたくさんあるなと思ったし、他の地域の人とも交流することができて良かったです。これからいつ何が起こるかわからないから今からでも自分が防災意識を持って生活していきたいと思いました。(金井島)

- ・暑かったけれどすべての訓練に積極的に参加できたので良かったです。しっかりと防災訓練ができたと思います。すべてが初めてのことであったので良い経験になったと思いました。発電する機械のひもみたいなのを引っ張るのが大変でした。バケツリレーでは渡す相手が持ちやすいように、なるべくはやくやることを心がけました。いざ本当に災害が起こってしまったときに、冷静に対処できるか不安だったので今回練習できて良かったです。(宮台)



【2年生】

- ・AEDは倒れた人のためにあるもので、突然必要なときがやってくるものです。一人では助けられないと思うので、地域の人たちの助けが必要だと感じました。消防の方のわかりやすい説明のおかげで、スムーズにできるかは心配ですが、頭では理解できたので良かったです。消火器は突然の事態になっても使えると思います。意外と簡単でした。本当の災害時は今回のように落ち着いてできないと思うので、緊張せずに地域の人のために助けるという思いを持って行動しようと思います。来年はもっと進んでできたら良いです。(榎本)

- ・いつ起こるか分からない地震がもし起こってしまったときのために、このような訓練をすることはとても良いことだと思います。バケツリレーでは下島の人たちが協力して一つの物事に対してすごいチームワークを発揮していてとても良かった。発電機の使い方では、わからないところがあったら担当の方たちが実際に使って見せてくれたし、直接やり方を教えてくれました。全ての人たちが協力していろいろなことに取り組み、短時間に集中して行う素晴らしい時間でした。今後もこのようなことがあったら参加したいと思いました。(下島)

- ・消火訓練では水圧がすごくて吹き飛びそうになったけど、何とかできたのでこの経験を火災が起きたときに活かしたいと思いました。土嚢作りはやり方を覚えたので、自分たち中学生だけでもできそうな仕事だから災害が起きたときは活かしたいです。これからは大人ばかりに頼っていないで、中学生からどんどん町に役立つように、こういう訓練を大切にして、本当に災害が起きたときに困らないように積極的に行動できるようにしたいと思いました。(上延沢)



- ・昨年は雨のため防災訓練ができなかったけれど、今年は去年の分も学べたと思います。実際に消火や発電、人の救出を訓練してみて、防災について前よりも詳しくなれました。どの訓練もひとりではできなくて、地域の方々や中学生の仲間の力が必要だったので、改めてご近所さんとコミュニケーションをとり、自分の身近な人たちとの関わりを大切にしていきたいと思いました。また、今日学んだことを忘れずに、万が一災害が起きたとしても自分たちの命を守るために動きたいです。貴重な体験をさせてくれた地域の方々にお礼が言いたいです。(牛島)

- ・私は消火器、土嚢作りも大変だったけど、AEDが1番だなと思いました。人の命がかかっているし、救急車が来るまでの間にできることなどを訓練して、改めて大変だなと思いました。災害など起きて欲しくないけど、いざ起きたときには周りの人、近所の人たちと協力していきたいなと思いました。そして死者0人をめざしたいです。できれば怪我人も出ないようにしたいです。(河原町)



【3年生】

- ・安否確認シートの回収では、エレベーターを使わずに14階まで上がって走り回らなければならないので、災害時は中学生が頑張らないといけないな、と感じた。今回初めてこの訓練を行う1年生に説明できたし、2、3年で1年生の仕事をフォローできたので良かった。実際に消火器や発電機の使い方を丁寧に説明していただき、触らせてくださったので、実際に使うときにもちゃんと順序を守って使えそうだった。担架を毛布と竹竿だけで代用できたりするのも実用的だし、竹竿の代わりに伸び縮みする竿は使ってはいけないという貴重な情報を知ることができて勉強になった。(パレットガーデン)

- ・去年、雨でできなかった体験ができてとても楽しかったです。暑かったけど担架作りは、ひもで止めていないのに人が乗っても落ちなくて、すごいなあと思いました。自衛隊の人今回初めて会って、テントを組み立てるときや準備などをてきぱきと素早く行っていて、災害が起こったときに自衛隊の人のように行動できたら良いなと思いました。初めてのことがたくさんあり、わからないことだらけだったけど、地域の人たちが声をかけてくれたから、わかりやすくてとても良い経験ができました。またやりたいです。(下延沢)

- ・今回の訓練で一番印象に残ったことは、発電機の使い方を教わったことです。発電機は普段あまり触れる機会がないので、使い方を知りませんでした。でも今回教わることができたので、緊急時に発電機を使って周りの人の役に立てるようにしたいと思います。そして、これまでの防災訓練で教わったことを活かして災害時に地域の人役に立てるようになりたいです。3年間ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。(岡野)



- ・リーダーのものすごくわかりやすい説明があつて、ティッシュ配りも役割がしっかり決まっていって迅速な対応ですごかった。役割を決めて行動することが災害が起きたときに大切だと思った。自衛隊のテント作りも自分たちで分担を決めていて、丁寧な作業で素早く設置していてすごいなと思った。今回見たり体験したりして学んだことを災害が起きたときに積極的に行動に移していきたい。(円中)

- ・僕は「テント張り」という仕事をする設備係を任されました。同じ係の文中生はいなかったけど、係の人たちがしっかりと分かりやすく教えてくれたので、積極的に取り組むことができました。テントの組み立ては最初にやったときにはとても難しくて上手くいかなかったけれど、僕の周りにはたくさんのフォローがあつたので助け合うことができ、災害時もこれなら上手くいける！と思いました。大切な経験をさせていただくことができて良かったです。(みなみ)



○来年度の防災訓練実施に向けた検討について

(1) 参加人数の集計方法について

自治会によって、訓練参加者の集計方法が異なる。

実践に即した安否確認及び情報伝達体制方法を確立しつつ、来年度以降は各自自治会訓練場所への参集人数ではなく、組での集計を含めた最大数とする。

(2) チェックシートの徹底について

自助の訓練充実のため各家庭でのチェックシートを自治会へ配布したが、来年度以降は安否確認等にも使用できるよう内容を見直していく。

(3) 訓練充実のためのヒアリングの実施について

今年度も各課・各防災部長を対象にヒアリングを実施し、訓練内容の適正化を行った。より実践的な訓練へと内容を改革していくため、来年度以降も実施したい。

(4) 中学生の訓練参加について

今年度は中学生の訓練参加基準も設けた。

しかし、一般の方が訓練出来ていない状況等が発生してしまった。一部の生徒は出席確認後帰宅してしまっているため、参加する意義等を周知していく。

(5) 広域避難所訓練について

避難所を開設運営する場合、共助・公助連携による避難所開設は必要不可欠であることから、町では広域避難所マニュアルの作成を進めている。

来年度の防災訓練ではこのマニュアルに沿った訓練を実施し、効果や問題点を検証していきたい。

(6) 土のうの活用について

土のう袋及び砂を訓練で依頼した自治会は自治会内で土のうを保管する場所を確保する。